

第 69 号

2012年6月

ラルーラ通信

＜発行＞
中部学院大学
子ども家庭支援センター
〒504-0837 岐阜県
各務原市那加蛸田町30-1
Tel.058-375-3605
fax058-375-3609



造形表現の活動について

中部学院大学 子ども学部
特任教授 江崎 榮彦

私は、約50年間にわたって油絵の具・アクリル絵の具を使った絵画を発表してきました。また中部学院大学子ども学部では「造形表現技術」「図画工作」の授業を担当させていただいております。

私の幼少時代を振り返ってみたとき、「自分が描いた絵」として意識に残る最初は小学校4年生頃の記憶です。当時、絵の具会社が主催する写生大会が春と秋、岐阜公園で開催されていました。遊ぶことが主目的でクラスの仲間数人とその写生大会に参加しました。全員入選、その中で私だけが銀賞をもらうという快挙です。しかしどのような絵であったのかまったく記憶にはありません。しかし遊びたい一心から、画用紙の上に直接チューブ入りの絵の具を数色しぼり出し、筆で引っかき回した記憶はのこっています。「なぐり描き」に近い絵？であったろうと想います。だから当時は銀賞受賞といっても喜びなど沸いてきませんでした。むしろ友だちには後ろめたさを感じていたと言った方が正しいかと思います。今、そのことを振り返って考えてみると、「遊びたい」という衝動を一気に表出した、エネルギーを爆発させたような絵になっていたのかもしれない。審査員の眼力に敬意を表したい気持ちです。

子どもの活動は遊びにかかわったところから、人・物に出会い、心身の成長体験を重ね内面世界を築き、日常生活を豊かにしていきます。また子どもの表現は感動体験が前提です。毎日の経験の豊かさが表現をより豊かに育てているのです。感動の源は遊びであり、生活の中にあります。楽しい、面白い、きれい、すごい、悲しいなど、感情を伴った体験が、表現したいという欲求につながったものです。このことは何も子どもの表現活動に限ったことではありません。子どもの感性がとらえる造形表現や色彩感覚は、世界中の多くの画家にインスピレーションを与えてきました。画家たちを魅了する最大の理由は「純粋さ」でしょう。そして表裏一体の「未熟さ、稚拙さ」があげられます。画家が、身に付いてしまった技術や思想を白紙に戻し、純粋さ、未熟さ、稚拙さにあえて回帰させることによって、「自由」で自分自身の「精神の解放」を取り戻そうとしているのです。

ここで考えたいことは、絵を描く行為は視覚に頼った行為です。しかし、子どもの造形表現の活動は最初から視覚に頼った行為ではありません。生命維持のために絶対必要な基本感覚の触覚・温覚・冷覚・痛覚・圧覚、そして筋肉や骨の動きを感じる運動感覚など、とくに触覚を主とした本能的な行為から始まるのです。しかし小学校の中学年頃になると、写実的表現を好む傾向が顕著になってきて、視覚によって認識された空間を表現することにこだわるようになります。物の重なりや隠れて見えない部分を意識し、自分の眼で捉えた形を描こうとする視聴覚の優位性が明瞭になってくるのです。そのため、自己の描写力や表現技術に限界を感じ、表現活動から離れていくことになり、この時期を境に、表現活動としての造形はその優位性を失っていきます。



☆ 今年度も 様々な催しスタート！ 毎月の催し紹介



「子育てサロン」新聞遊び

今年度も、様々な催しがスタートしました。各年齢別の親子サロンを始め、学生主催の催しも数多くなり定着してきました。

今年度からスタートした1歳児対象の「にこにこ広場」も好評で、すぐに定員いっぱいになってしまうほどです。今年度の様子の一部の紹介ですが、他にも様々な催しがスタートしています。一度覗いてみませんか。



「ランチタイムコンサート」吹奏楽部



「みんなで遊ぼう!」学生主催



「げんきサロン」かけっこ



「にこにこ広場」ボール遊び



「コーナー遊び」制作

☆ “キッズ研究員”を募集中！ 1～2歳のお子さんとお母さんペアで

中部学院大学脇田和子教員が、今回もとてもおもしろそうな音楽体験を提案してくれました。参加してみませんか？詳しくは、別紙募集チラシをご覧ください。(募集チラシはラ・ルーラにて配布しています。)



子どもたちは、大人に自分の気持ちを受け止めてもらおうといろいろなメッセージを発信しています。やってほしいことや分かってほしい気持ちをまだうまく言葉で伝えられない子どもたちは、視線や表情、発声、動きといった様々な方法を駆使して、けなげにサインを送り続けています。しかし、大人側はうっかりそれらを見逃してしまうことも少なくありません。そこで、子どもたちがどのようなときにどのようにしてサインを送っているのか、そして、そのメッセージの内容がどのようなものなのか、さらに、子どもがサインを出しやすくするためにはどんな工夫ができるのか等を、母子遊びを録画させていただいた中から発見していきたいと考えています。

(“キッズ研究員”募集チラシより)

☆ 学生が実習でお世話になります

今年度も子ども学部子ども学科・短期大学部幼児教育学科の学生が、授業の中でラ・ルーラ内や他の教室にて子ども達と関わり、実習をさせていただいています。6月も火曜日と水曜日にラ・ルーラにて一年生が見学や子どもと関わり、実習させていただきます。教員・保育士の指導の元の実習しますがよろしくお願いたします。



☆ ラ・ルーラの畑でタマネギ収穫！



先日、タマネギの収穫をしました。

タマネギの出来具合と天候を見ながら日にちを決め、ちょうど遊びに来ていた親子さん達と一緒に楽しみました。「うぁ～ タマネギいっぱいあるよ」「ちっちゃいのも大きいのもいろいろだよどれにしようか」などと嬉しそうに始めました。最初はなかなかうまく抜けませんでしたが慣れてくると上手くなり更に楽しそうでした。

収穫の後にはまた整備して今度はサツマイモの苗を植えました。秋頃に収穫できる予定です。お楽しみに！



☆ ラ・ルーラでのひととき

今回は、タマネギの収穫の様子ともうすぐ2歳の男の子のかわいい姿をお届けします。



タマネギ収穫! 「見て見て!こんなに大きいよ!」

身支度を整えてタマネギ畑に行きました。2歳の子はママに話をしてもらいながら興味津津の様子ですが、1歳の子は靴をはいて戸外に出たことがまずは嬉しくて畑のタマネギなんて目にも入りません。好きなところへ走って行き、ママと追いかけてこが始まっていました。年齢によって様々な行動です。「うあ〜タマネギいっぱいあるよ」と感激していたのはママ。子ども達は最初は何のことかわからない様子です。「ほら、こんなに大きいよ。あぁあそこにはちっちゃいのもある。」と話していくうちに興味が出てきたようで一緒に抜き始めました。しかしまだ要領がわからずただタマネギの葉を持っているだけで力が入りません。地面からほとんどかおを出して、土に埋まっているのは細い根っこだけなのですがなかなか抜けません。「ウントコショ ドッコイショ」と絵本の中の大きなかぶを抜く要領の掛け声がかかり、ママと一緒にスポンと抜けて大喜び! 「ぬけた〜! 大きいよ」「今度はどれにしようかなあ」と次の品定め。そんな頃、ママと追いかけて楽しんでいた1歳児さんがやっと帰ってきました。目の前の訳のわからない物(タマネギ)がやっと目に止まったようでママと一緒に抜いて引き抜ける感触を味わっていました。

どの子もみんな、2個3個と抜くうちにやっとコツがつかめ、手にも力が入り、腰も入れて一人前の抜き方が出来るようになった頃畑のタマネギがすっかり抜けていました。収穫したタマネギをみんなで分けて持ち帰り「今夜はカレーライスを作ろうね」等と会話も弾んでいました。

「もっikkaい! (もう1回やって!)」

ラ・ルーラの事務スペースと遊びのスペースとの境は、黄色のプラスチックチェーンで仕切られています。そこでニコニコ笑ってこちらの様子を伺っているもうすぐ2歳のA君。「(ここまでなら大丈夫かな? もうちょっとならいいかなあ...)」なんて思っている声が聞こえてきそうなそんなイタズラな顔をして少しずつチェーンを潜り抜けやってきます。そんな様子を見ながら「コラコラだめだよ〜。」と笑って言うとキャハハハ〜と笑って逃げるA君。「まてまて〜」「キャハハハ〜」「つかまえた!」とコチョコチョコとくすぐると私の腕をすり抜けてスクッと立ち「もっikkaい(もう1回やって)」と指を1本立てて見せてニコリ。「コラコラ〜」と追いかける、キャキャッと逃げる、「つかまえた!」と抱きつきコチョコチョコとくすぐるとまた逃げていき「もっikkaい」と催促する…。何度も何度も繰り返しばらくの間、同じ遊びを飽きることなく遊び楽しみました。

やってもらふこと、やってもらえること、少し先を期待して遊びを要求するA君。いつもママにやってもらっているのでしょう。いつものママのしあわせを少しだけ味わわせてもらったひとときでした。



ラ・ルーラ季節たより「親子で見つける小さな自然」

大学南に位置する

「学びの森」の公園を地図を使って大まかに説明します。この公園は岐大農学部跡地の自然を、存分に生かした素敵な自然公園です。何本もの大木ときれいに敷き詰められた緑の芝生が魅力です。

中部学院大学各務原キャンパス

ムクドリ発見!

この辺りの雑木林にムクドリを5~6羽見つけました。巣があるのか作っているのか飛び立ってもまた戻ってきます。鮮やかなオレンジ色のくちばしが目印です。騒がずジッと待っていると必ず帰ってきます。見つけると嬉しくなること間違いなしです。

各務原養護学校

那加福祉センター

「霧の泉」ミストシャワー

この辺りの芝地には仕掛けがしてあり、定刻に地面からミストシャワーが吹き出てきます。子どもの背丈なら優に超える勢いで、吹き出ている時は南側の道路から車で通りかかっても見えるほどの量です。子どもはもちろん大人も入ってみたくなるミストですよ。



ムクドリ

大木が並び大きな木陰があります

常緑樹木の大木が立ち並び、涼しい木陰を作っています。もう少し北のイチョウの大木の下も涼しくお弁当を食べるのに最適な場所です。



<ラ・ルーラ開設日> 火・水・木・金・土曜日 (時間 10:00~16:00)

催しがあるときも ラ・ルーラ内で自由に遊べます。



7月の予定

日	月	火	水	木	金	土
1 休み	2 休み	3 子育てサロン 11:00~12:00	4	5 11:00~ お母さんのための リフレッシュ講座	6	7
8 休み	9 休み	10 子育て実践 プログラム ランチタイムコンサート	11 げんきサロン 11:00~12:00	12	13	14 みんなで遊ぼう! 11:00~12:00
15 休み	16 休み	17	18 にこにこ広場 11:00~12:00	19	20 11:00~ 移動図書館 (読み聞かせ)	21
22 休み	23 休み	24	25	26 赤ちゃんサロン 11:00~12:00	27 7月の誕生会 11:00~11:30	28
29 休み	30 休み	31 12:50~ ランチタイム コンサート				

*毎日 11 時頃にお話しの時間があります。7月の遊びは「しゃぼん玉遊び」です。

*各サロン・子育て実践プログラム等、ラ・ルーラ利用料(保険料)にてご利用いただけます。

尚、各行事は定員 15~20 組、準備のため事前参加申込みが必要です。

電話：058-375-3605 FAX：058-375-3609

7月の行事 各サロンの内容紹介

3日 子育てサロン バルーンと小ポール遊び & セタ飾り (制作)

5日 お母さんのためのリフレッシュ講座 「子どものヘアアレンジとカットのコツ」
(注：日時の変更になる場合もありますのでご確認ください。)

10日 子育て実践プログラム 「子どもとマナー」
(中部学院大学子どもの学科教員 柴崎 直人)

11日 げんきサロン (2~3歳児対象) カラーポール遊び と 流れ星ポール (制作)

14日 「みんなで遊ぼう！」 学生サークルによる遊び広場 (今月担当サークル：たんぽぽ)

18日 にこにこ広場 (1歳児対象) 親子ふれあい遊び

20日 移動図書館・読み聞かせ 図書館スタッフによる 本の紹介と読み聞かせ

26日 赤ちゃんサロン (0歳児対象) 親子ふれあい遊び & 交流 話題 (生活習慣)

27日 誕生会 7月生まれのお友達を みんなで祝います。

10・31日 ランチタイムコンサート 吹奏楽部員による ミニコンサート
(毎月第2火曜日と最終火曜日と2回演奏します。)

